

私は新聞記者 *I'm a journalist!!* 社内記事コンペ

本日の活動：新聞記事を書いて編集長に提出する ウィリアム・カムクワンバさんの偉業を記事にしよう。

新人研修も終わり、一人前の新聞記者になるべく頑張るあなたにステップアップのチャンス到来です。なんと「社内記事コンペ」が行われることになりました。提示される情報から自分で取材メモを作り、それをもとに英語で記事を書き、どの社員の記事が優れているか競うものです。

取材対象は、アフリカのマラウイでユニークな風車を作って有名になったウィリアム・カムクワンバさんです。彼の国や家庭の状況、風車のデザイン、風車を作った思い、将来の夢などについて書きましよう。完成した記事は編集長が20点満点で評価します。

<活動の流れを于エツクしよう>

- STEP1 取材メモを書く(教科書・動画・映画予告などを参考に)
- STEP2 写真や取材メモをもとに記事を書く、記者の考えも書いてよい
- STEP3 メアリー編集長に提出して評価してもらう



ウィリアム・カムクワンバ少年
マラウイ出身・14才・1987.8.5生

- 記事は**タイトルと5文以上の英文**で書きます。**時間は20分**です。
- 上位4名に**ウィリアム賞**(神龍印×2)を、最高点の記事には**最優秀記事賞**(神龍印×2)を与えます。
- 編集長からの話、TEDや映画予告の動画などから**取材メモ**をつくろう。

<あなたの取材メモ> 編集長の取材メモ(右)も自由に使ってOK!



(例) 2001年にひどい干ばつがマラウイを襲った。A bad drought hit Malawi in 2001.

<編集長の取材メモ>

- 2002年当時マラウイでは人口のわずか2%しか電気が使うことが出来なかった。
- 農業を営む両親は年間80ドルの学費が支払えず、カムクワンバは中学校を退学した。
- 完成した高さ約5メートルの風車で、4つの電球(bulb)と2つのラジオ(radio)が使えるようになった。
- 彼の家には、村の住人がラジオを聞きに来たり、携帯電話の充電をしに来たりする。

<記事作成のポイント>

- 主語と動詞を意識しながら正確に書こう。でも、必要以上にミスを恐れず積極的に書き進めよう。
- 記者の気持ちや考えを盛り込むと記事に深みができます。「I like～」や「I think～」を使おう。
- 編集長に**アドバイスを求めることも可能なので積極的に質問しよう。**
- 活動の感想を書きましよう。

	年	組	番
	名前		

◆即興性を意識させ、間違いを恐れずに書かせる。ALTに評価してもらい、あわせて文法指導もしてもらう。
 ◆マラウイの干ばつや飢饉の話題から食糧問題やSDGsの学習へリンクすることもできる。
 ◆環境が許せば、PCやタブレットを自由に使わせTED等の動画を繰り返して視聴しながら取材メモをつくらせることが望ましい。